

平成27年第6回(5月)袖ヶ浦市教育委員会定例会議事録

1 開催日時 平成27年5月20日(水) 午後2時30分開会  
午後3時25分閉会

2 開催場所 市役所2階第一会議室

3 出席者

委員長	多田 正行	委員長職務代理者	山口 修
委員	福島 友子	委員	中村 伸子
教育長	川島 悟		

(欠席委員)

なし

4 出席職員

教育部長	鈴木 和博	教育部次長 (兼教育総務課長)	森田 泰弘
教育部参事 (兼生涯学習課長)	原田 光雄	学校教育課長 (兼総合教育センター所長)	小川 幸男
体育振興課長	林 健司	学校給食センター所長	野呂 幸晴
学校教育課副参事	井関 徹太郎	教育総務課副参事	溝口 輝
教育総務課副参事	中山 久江		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議 題

日程第1 前回会議録の承認について

日程第2 今回会議録署名人の選出について

日程第3 教育長・教育部長報告

日程第4 その他

(1) 学校給食における食物アレルギー対応について

(2) 平成27年度教育長訪問予定について

## 7 議 事

### 日程第1 前回会議録の承認について

委員長 前回定例会会議録の承認について賛成の挙手を求める。

委員長 全員一致で承認されました。

### 日程第2 今回会議録署名人の選出について

委員長 中村委員を指名した。

### 日程第3 教育長・教育部長報告

委員長 教育長、教育部長に報告を求める。

教育長 第1回市立小中学校校長会議(4月17日)、袖ヶ浦市市政協力員会議(4月17日)、体育協会総合開会式(4月19日)、ガールスカウト千葉県第87団入団式及び定期総会(4月19日)、新規採用教員研修会(4月21日)、第1回教育長会議(4月22日)、文化協会定期代議員会議(4月25日)、袖ヶ浦市子ども会育成会連絡協議会総会(4月26日)、第1回市立幼稚園・小中学校教頭会議(5月1日)、袖ヶ浦市PTA連絡協議会総会(5月2日)、平成27年度君津地方技術教育センター運営委員会(5月7日)、第25回百目木公園まつり(5月9日)、市少年野球連盟夏季大会開会式(5月10日)、社会教育推進員前期全体研修会(5月12日)、君津地方視聴覚教材センター運営委員会(5月12日)、第1回市立小中学校教務主任会議(5月13日)に出席した。

教育部長 袖ヶ浦市市政協力員会議(4月17日)、第1回袖ヶ浦市学校給食アレルギー対応検討委員会(4月24日)、市原・袖ヶ浦少年少女発明クラブ企画委員会及び開講式(5月9日)に出席した。

### 日程第4 その他

#### (1) 学校給食における食物アレルギー対応について

委員長 事務局に説明を求める。

#### 学校給食

センター所長 食物アレルギーとは、特定の食物を摂取することにより、皮膚・呼吸器・消化器あるいは全身に生じるアレルギー反応のことを言い、食物衛生法では、加工食品等において、アレルギー反応をもたらす原因食物の表示について、患者数が多いことや重篤度の高い主要7

品目卵・乳・小麦・そば・落花生・えび・かについて表示を義務付け、他20品目の表示を推奨している。

学校給食における食物アレルギー対応の経緯としては、国の取り組みとして平成20年3月に、財団法人日本学校保健会が発行し、対応基準の提供を推進している。

本市の取り組みとしては、平成9年度より、食物アレルギーを持つ児童生徒に対して、特定原材料等の27品目が明記された詳細献立表を配布している。

平成22年7月に策定した「袖ヶ浦市学校給食施設整備基本方針」では、「個に配慮した給食であること」とし、食物アレルギーについては、詳細献立表等による情報提供に加え、除去食等の対応を行うこととした。このことを受け、新学校給食センターの整備にあたっては、特定原材料主要7品目について、最大50食の除去食対応が可能なアレルギー食調理室を設置した。

除去食については、安全・安心を第一に考え、段階的な対応を進めることが適切であることから、当面、特定原材料主要7品目の内、対象者が多く、他市での取り組み事例の多い、卵、乳、卵+乳を除去した給食を提供することとし、4月24日に開催された第1回袖ヶ浦市学校給食アレルギー対応検討委員会において、除去食提供を希望する児童4人の内3人については除去食対応、残り1人については弁当対応することが決定した。

食物アレルギー除去食を提供するにあたっての流れとしては、食物アレルギー対応内容の説明会を開催し申請書類等を配布、申請書類に基づき個別面談の実施、校内食物アレルギー対応委員会での検討を経て、袖ヶ浦市学校給食食物アレルギー対応検討委員会にて個々の児童生徒に対しての対応方針が決定され、除去食の提供が開始される。

本市学校給食における食物アレルギーの対応レベルについては、財団法人日本学校保健会が策定した「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」に基づき対応レベルを1から3まで設定している。レベル1は、特定原材料27品目の有無を記入した献立を家庭に事前配付し、それを元に学校給食から原因食物を除外しながら食べる対応。レベル2は、完全弁当対応、一部弁当対応。レベル3は、卵・乳・卵+乳の原因食物を除いた除去食対応となっている。

現在の学校給食食物アレルギーの対応状況については、小学校においてレベル1が14名、レベル2が10名、レベル3が3名、中学校においては、レベル1が1名となっている。安全な除去食の提

供に向けては、各段階でのチェック機能が重要となるため、「袖ヶ浦市学校給食センター運用マニュアル 食物アレルギー編」に沿って誤りのないよう、献立表作成や調理にあたっての複数確認や個人名を記入した「配送食札」の貼付け、「除去食受け渡し確認表」への確認者署名など責任の所在を明確にすることとしている。

今後の対応として、今年度は、詳細献立表の配付と、卵と乳に対する除去食の安全・安定提供に取り組み、食物アレルギー対応の流れ等について検証・分析を行い、学校の評価や意見を取り入れ必要に応じ運用やマニュアル等の見直しを実施する。また、安全が確保できる状況になった時点で、他の原因食物への対応についても引き続き検討を進めていく。

委員長 ただいまの説明について委員に質疑を求める。

山口委員長

職務代理者 卵・乳のアレルギーがある児童生徒は全体で何人いるのか。また、何らかの食物アレルギーがある児童生徒の全体に占める割合はどの程度なのか。

学校給食

センター所長 卵アレルギーが8名、乳アレルギーが7名である。また、何らかの食物アレルギーがある児童生徒数は、平成26年度のデータでは、128名おり全体の約3%となっている。

教育長 3名の児童に除去食を提供し何日か経ったが、児童からの評判はどうか。

学校給食

センター所長 直接児童からの評判は聞いていないが、残渣の量が少ないことから概ね良好と考えている。

中村委員

近日中の献立、食材について聞きたい時も、一旦、学校へ相談し給食センターに聞いてもらう方が良いのか。それとも給食センターに直接聞いても良いのか。

学校給食

センター所長 原則学校を通しての相談としている。給食センターに直接相談いただくケースもあるが、学校との情報の共有という観点からも、まず学校に相談し給食センターに連絡を取っていただく方が、後々問

題が生じないと考える。

なお、給食センターに直接相談いただいた場合は、必ず学校へ連絡をし、学校側とも綿密に連絡を取り合ってもらうようお願いしている。

委員長 情報の共有を心がけ、お互いに連絡調整し合い対応していただきたい。

山口委員長

職務代理者 エピペンは個人が持参するのか。

教育部長 エピペンは個人で用意していただき、1本は個人が常に携帯し、1本は念のために学校で保管している。

中村委員 弁当持参の児童の保護者から、見た目が献立と同じような弁当を作ってあげたいが、献立表だけだと料理のイメージが分りにくいとの話を聞いた。ホームページを利用し、料理名で料理の写真が検索できるように今後検討していただけないか。

学校給食

センター所長 詳細献立表の食材情報の提供も求められているところであり、併せて検討させていただく。

教育長 給食センターの一番の使命は、安心・安全な給食を継続的に提供することにある。事務量の増、児童生徒数の減による栄養士の減という状況の中にあって、本市の学校給食ではアレルギーに取り組んでいる。どんなニーズがあるのか、どういう形が一番現実的に対応可能かを検討していただきたい。

(他に質疑なし)

(2)平成27年度教育長訪問予定について

委員長 事務局に説明を求める。

学校教育課長 5月25日から教育長訪問が始まる。各委員には教育長訪問予定表のとおり訪問をお願いしたい。ご都合の悪い場合は、教育委員同士で調整し対応していただきたい。

(質疑なし)

以上会議の顛末を録し、ここに署名します。

署名人

署名人

署名人